

病 院 情 報 誌

そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

Contents 2023年10月 第48号

- 「採血・採尿受付機」のご紹介
- わたしたち放射線科のナースです!!
- 経カテーテル大動脈弁置換術の適応拡大
～人工透析を受ける患者様に対する
「切らない治療」が可能になりました～
- ご存知ですか?内視鏡で異常がない胃腸の病気
- ロボット支援手術 徹底解剖 呼吸器外科編
質の高い安全な手術の提供
- ほくろのがん 悪性黒色腫って?
- 肝硬変を見過ごしていませんか?
- 専門看護師・認定看護師の活動について
- 診療科紹介 消化器外科
- Stop!CLD(慢性肝疾患)
「奈良宣言2023」について



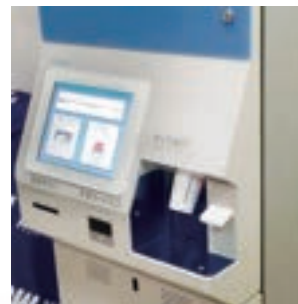
採血・採尿 受付機 のご紹介

中央臨床検査部3F採血室では2023年5月29日から「採血・採尿受付機」の運用を開始しました。当日の診療・検査のある方は、病院再来受付機で受付を済ました後に「採血・採尿受付機」をご利用ください。受付機稼働時間は採血開始の8時から15時までです。

ご利用については診察券を診察カード入口に挿入し、しばらく待った後、採血がある場合は採血受付票が発券され、尿検査もある場合はカップ出口から採尿カップが出てきます。受取が完了すると診察券が戻って来ますので、忘れずお取りください。

但し、下記の場合「採血・採尿受付機」では受付ができません。お手数ですが有人受付で対応させていただきます。ご不明な点はお問い合わせください。ご不便お掛けします
がよろしくお願いいたします。(中央臨床検査部 水原 祐次)

- 診察券をお持ちでない方
- 当日再来診察表に採血・採尿の指示がない方
- 検査用の尿・たんを持参された方
- 車椅子の方
- 当日治験検査を受けられる方
- 当日化学療法を受けられる方
- 特殊な検査のための採血(安静採血・糖負荷検査・呼気検査)をされる方

わたしたち
放射線科の
ナースです!!

放射線科は、画像を扱う画像診断部門と治療部門から構成されます。今回は画像診断部門の看護師の役割についてご紹介します。画像診断部門の看護師は「患者さんの体調を注意深く観察して対応すること」「造影剤等による副作用の早期発見」を大切な役割として看護を実践しています。造影剤を使用する場合は、アレルギー出現とその対応、MRIでは金属の持ち込みをすると重大な事故が起きる危険性があり、細心の注意が必要です。

看護師は、患者さんの既往歴や服用している薬剤、アレルギー歴、全身状態など、検査・治療に必要な情報を丁寧に問診し、得た情報を医師・放射線技師と共有して安全に検査が実施できるように努めています。また検査にご来院される患者さんは、検査結果だけでなく、どのような検査なのか、苦痛はないのかなど、様々なご不安を抱えてお越しになります。そのような患者さんの心情に寄り添いながら安全に検査を実施するために日々努力しています。検査に関してご質問等がありましたら、放射線科看護師にお声掛けください。

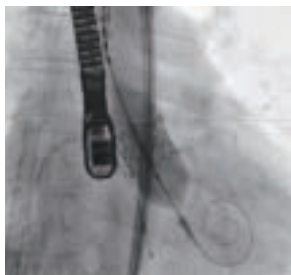
(中央放射線部 山崎 仁美)



いつも安全を心掛け、患者さんの検査をしています

だいどうみやくべんきょうさくしやう

大動脈弁狭窄症は、失神や突然死に繋がる非常に重篤な心臓弁膜症のひとつです。経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)の普及により多くの患者さんに対して、より安全に「切らない治療」が可能となりました。当院においても2018年からTAVIを開始し、通算600件を超える治療を安全に行っております。慢性腎不全による人工透析を受ける患者さんにおいては、腎臓病のない患者さんと比べて大動脈弁狭窄症の頻度が高く、病気の進行速度も速いとされています。しかしながら、これまでTAVIに関しては適応を見送られていました。透析を受けておられる患者さんの中には外科手術のリスクが高い方も多く、TAVIが保険適応されることが我々の願いでした。



この度、国内での臨床試験で安全性が確認され、当院においても透析を受けておられる患者さんに対してTAVIが実施可能となりました。大動脈弁狭窄症と診断され治療をためらっておられる患者さんは是非、当科へご相談いただければと思います。
(循環器内科 山口 智大)

経カテーテル大動脈弁置換術の適応拡大

「切らない治療」が可能になりました

人工透析を受ける患者さんに対する



ご存知ですか?

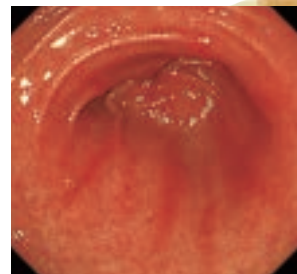
内視鏡で異常がない 胃腸の病気



内視鏡で異常がない胃腸の病気をご存知でしょうか?内視鏡検査を行っても見た目は正常で、異常が見つからない病気があります。その代表的な病気は、機能性ディスペプシアと過敏性腸症候群の2つです。

機能性ディスペプシアは胃・十二指腸の病気で、胃の痛み、もたれ感などの症状が出ます。過敏性腸症候群は小腸・大腸の病気で、下痢、便秘によるお腹の痛みが出ます。これらの病気の有病率は約10%程度、つまり10人に1人が持っている病気であり、決して稀な病気ではありません。原因は胃腸の知覚過敏や動きの異常、目に見えない程度の炎症などです。知覚過敏があるかどうかは、見た目では判断できませんよね。

内視鏡で異常が無いのに胃腸の症状が続く場合はこれらの病気の可能性がありますので、主治医と一度ご相談されてはいかがでしょうか。(消化器内科 田中 史生)



胃カメラで異常がない病気、機能性ディスペプシア



呼吸器外科編

質の高い安全な手術の提供

肺がんは、日本人のがん死亡率第1位のがんで、罹患数、手術数は現在も増加傾向にあります。我々は地域に根差し、患者さん一人一人に合わせた適切な手術を提供しております。手術のさらなる低侵襲化を目指し、2019年よりロボット支援手術を導入しました。現在、ロボット支援手術の指導資格取得者が在籍しています。適応疾患は、肺がん(原発性・転移性)、縦隔腫瘍、重症筋無力症です。近年は早期肺癌^{じゅうかく}や多発肺癌が発見されることも多く、これらに対する低侵襲手術を求める流れに、ロボット支援手術はよく適合しています。

ロボット支援手術の具体的な利点は、3Dカメラで映し出された鮮明な立体映像、術野の10倍拡大、人の手以上の器用さ、手ぶれ補正、術後疼痛の軽減などが挙げられます。これらを駆使し、約1cmの皮膚切開が5ヶ所で手術が可能になります。手術時間は平均3~4時間で術後翌日より経口摂取・歩行可能です。さらには、術後5-7日が退院の目安となります。ロボット支援手術や肺がん手術に関して、いつでもご相談いただければと思います。お待ちしております。

(呼吸器外科 原 幹太郎)



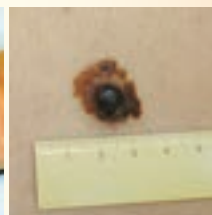
ほくろのがん 悪性黒色腫 って？

皮膚がんには様々な種類がありますが、最も有名なもののひとつがほくろのがんである悪性黒色腫(メラノーマ)です。日焼けしたときに黒くなる因(もと)となるのがメラニンであり、これを作るメラノサイトという細胞が皮膚にはいますが、これががんになったものが有名なメラノーマです。実は人種差がとても大きく、白人に多いのですが、日本人には10万人当たり年間1-2名程度の発症率であり、非常に少ないがんです。しかし普通のほくろとの区別が難しく、また進行すると転移することもしばしばあります。日本人では手足に最も多く発症します。大切なのは早期発見と早期手術です。元々小さかったのに、形が不整、境界が不明瞭、色にムラがある、サイズが大きい(6-7mm以上)などの変化が出てくるようなら一度、皮膚科にご相談ください。

(皮膚科 後藤 寛之)



腫の悪性黒色腫



腹部の悪性黒色腫

肝硬変を見過ごしていませんか？

肝臓は生体内で最大の臓器です。栄養を蓄え、たんぱく質を作り、毒素の分解・解毒を行うなど、身体活動に欠かせない働きを行っています。その肝臓に慢性的なダメージが加わることで、硬くなって動きが低下した状態が肝硬変です。肝硬変になると疲れやすい、体がむくむ、皮膚がかゆい、肌が黄色くなる、といった症状が出るがありますが、無症状で気付かないことも多い疾患です。血液検査や画像検査を行うことで初めて診断がつくケースも見られます。

当院では肝疾患診療連携拠点病院として医師・看護師・薬剤師・栄養士・検査技師・患者支援課など多職種が連携し、肝硬変の診断と治療に取り組んでおります。

肝臓の状態が気になるな、と思われた際にはぜひお気軽にご相談ください。

(肝胆膵内科 小谷 晃平)



超音波・MRIを用いた肝硬度測定



カンくん
(肝胆膵内科オリジナルキャラクター)

シリーズ 第23回 ～専門看護師・認定看護師の活動について～

認知症看護
認定看護師

当院では、専門的な知識と視点を持つ専門看護師・認定看護師が協力しながら対応・活動しています。

認知症の悪化・せん妄予防のための 当院の取り組み

入院や治療の影響で、認知症と診断を受けなくても、せん妄など認知症に似た症状を起こすことがあります。さらに、認知症の方の場合、急な生活環境の変化に適応する能力が低下し、興奮や落ち着きがなくなるなどの症状が出やすくなります。

当院では、リエゾンチームと協働し、認知症看護認定看護師が幅広く看護スタッフの相談を受けています。写真は、病棟の看護師と一緒に環境を整備した認知症の方のお部屋です。

ご本人が普段から使用されているものや、普段の生活習慣の一部を入院生活にも取り入れることにより、少しでも環境になじめるように工夫をしています。

(看護部 認知症看護認定看護師 小林 美保)

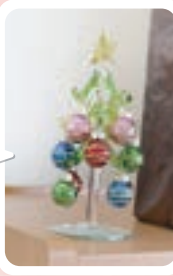
入院時にご持参いただきたいもの

ラジオ・
携帯電話など
日中使用できるもの



普段使用している
時計やカレンダー

季節感を感じられるもの・
普段、枕元に置いているもの



趣味のもの



せん妄リスクのある患者さんに
入院時にお渡ししているパンフレットです。

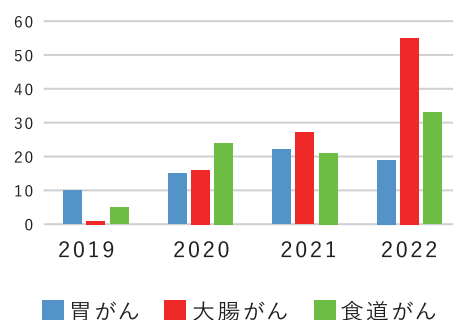
診療科紹介 消化器外科

消化器外科は食道疾患、胃疾患、小腸・大腸疾患のグループに分けられ、地域医療を通じ皆様に安心して高度医療を受けていただけるよう日々診療に取り組んでいます。

当科では、消化器がんに対してロボット支援手術をはじめとする低侵襲手術を推進しています。特にロボット支援手術は、従来の開腹手術や胸腔鏡・腹腔鏡手術よりも精緻な手術が可能です。また、術後の身体機能や生活の質を温存できるものと期待しております。当科におけるロボット支援手術の件数は全国的にもハイボリュームセンターのひとつとなっています。一方で、高度進行がんに対しては手術療法・化学療法・放射線療法を組み合わせ、いわゆる集学的治療を行うことで、個々の患者さんに最適な治療を提供できるよう努力を続けております。

(消化器外科 豊川 貴弘)

大阪公立大学病院における
ロボット手術件数の年次別変遷



STOP! CLD 「奈良宣言2023」について

「奈良宣言2023」は、第59回日本肝臓学会総会で発表されたもので、血液検査で測定されるALT値が30 U/Lを超える場合、かかりつけ医を受診することを勧めています。かかりつけ医による採血や超音波検査を受け、必要に応じて消化器・肝臓内科でより詳しい検査を行うことで、早期に肝硬変や肝がんなどの慢性肝臓病(CLD)を発見し、治療に繋げることを目的としています。

肝細胞の損傷によりASTとALTが血液中に漏れ出し、数値が上昇します。特にALTは肝障害に反映するため、血液検査でALT値が30U/Lを超えると、慢性肝臓病(CLD)の可能性のあることを示しています。

ウイルス性肝疾患(特にB型肝炎やC型肝炎)の治療方法は進歩し、肝臓病からの生存率が向上しています。しかし、肝臓は沈黙の臓器と言われており、肝臓病は進行して肝硬変や肝臓がんなどの症状が現れるまで気付にくい場合もあります。近年では、生活習慣病を基盤とする脂肪肝やアルコール性肝疾患などが増加し、肝硬変や肝臓がんに至るケースも増えています。

当院では、かかりつけ医の紹介状があれば毎日初診を受け付けています。肝硬度検査やCT、MRIなどの画像診断を通じて正確な診断を行い、抗ウイルス治療や化学療法などの内科的治療だけでなく、放射線科や肝胆膵外科と連携し、最適な治療を提案することができます。

(肝胆膵内科 榎本 大)



健康診断などでALT値が30を超えていたら、
慢性肝臓病が隠れているかも…



肝胆膵内科スタッフ

発行／大阪公立大学医学部附属病院

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話：(06) 6645-2121 (代表)

<https://www.hosp.omu.ac.jp/>

初診受付時間：午前8時45分～午前10時30分
休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日